

たくさんの花に囲まれて、朝から晩まで水環境問題に取り組んでいます。  
私の部屋の窓辺は、まるで「お花畑」です。

朝、出勤してドアを開ければ、花たちが笑顔で迎えてくれます。  
窓を開ければ、冷氣と共に心地良い花の香りが、部屋中に広がります。  
昨年1月、COVID-19 禍以来、一鉢 200 円ほどの様々な花を育てており、今では 15  
種類ほど育ち、部屋の湿度調整にも役立って、40~50%花たちが維持してくれている。



花言葉を探せば「愛だの、嫉妬など」  
がほとんどで、80歳の私の花への想  
いとは相いれません。今、盛りの水仙、  
シクラメン、バラなど本当に美しい  
ですよ。

アッツ桜は、太平洋戦争でのアツ  
ツ島に生えていた花だそうです。北  
太平洋の孤島を守る海軍さんが、可  
憐な紫の花びらに故郷の桜を偲んだ  
のでしょう。

30歳の頃、アッツ桜に初めて出会い、遠い北太平洋の孤島を思い浮かべていた。  
米軍が島に押し寄せた時、守備隊は一隻の駆逐艦で、夜陰に乗り1名も残さず、犠  
牲も出さず、部隊全員が脱出できた。押し寄せた米軍は、日本軍の見事さを称えて、  
司令官が敬意を表したそうだ。

午前中は、部屋の花たちは東を向き、昼は南を向き、午後には西を向く。  
水が足りず、元気のない鉢に、水を与えれば2時間後には「シャキッ」した姿勢  
に戻る。本当に植物が「生きているのだ」を、実感出来る。

「おい、小さなバラ君よ！ 君の方が大輪の奴らよりも断然美しいぞ」

31、Jan, 2021 小田兼利